

第13号

2022年6月30日 発行

(令和4年)

せいしょうのかい おおぞら かいほう
青松の会 おおぞら 会報



新職員の紹介

久しぶりの作業所へ

施設長 圓山賢吾 (まるやま けんご)

目黒との縁は、今から40年以上前に、大学のサークルで特別支援学級の子もたちと遊ぶようになってからです。おおぞらでも、子ども会時代一緒に遊んだ方にお会いしました。その後旧目黒六中のしいの木学級の補助員をし、その縁で目黒区に入区して、福祉工房や社会教育などを経験しました。区在職当時、理事長をはじめとして、おおぞらの方々の何人かは仕事で関係がありました。そのためか、懐かしさとともに30年以上前に戻った感じがしています。小学校の教員に転職してからは、目黒区以外の勤務が多かったのですが、最後は鷹番小学校に勤務させていただきました。目黒区からは大きな恩を受けてきたと感謝しています。

目黒区勤務時代の縁があり、また私にも故郷に就労継続支援B型作業所に通っている親族がいるので、これからの人生で何かお役に立つことが出来ればと思い、今回おおぞらのお仲間に加えさせていただくことになりました。

個人的には、体を動かすことが好きで、フルマラソンに挑戦したことがありますし、子どもにスポーツチャンバラを教えていたこともあります。前職の定年の年齢を過ぎましたが、まだまだ健康維持のためにも、何かスポーツにも取り組みたいと思っています。

少々浦島太郎感がある職員ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

「ちむ・どんどん」しています

支援員 豊里 篤 (とよざと あつし)

生まれは南国沖縄県。ちなみに、「ちむ・どんどん」とは「心がバクバクする」(高揚感)という意味です。ドラマではないですが、僕も小さい頃から音楽が大好きで、幼稚園の頃からピアノを習っていたこともあり、高校を卒業後、音楽に携わる仕事に就きたくて上京。音楽を通して多くの方々と共に仕事をしていましたが、当時の世の中はバブルが崩壊し、「今後、僕は何をすればよいのだろうか?」と自問自答の日々を送っていた頃、知人に「高齢者施設で、得意の音楽を活かして働いてみないか?」と誘われたのがきっかけで、福祉の世界に入りました。僕自身があの“おばあちゃんっ子”でもあって、人との関わりが何より大好きなので、高齢者支援の仕事にすんなりと溶け込む事が出来ました。高齢者施設では20年勤務。数々の経験をしてきました。その後、転職を機に障がい者施設で1年半務め、高齢者支援とはまた違う新たな発見に魅力を感じ、「障がい者支援員として働きたい」と思っていた所、おおぞらでの勤務に導かれた次第です。新年度を迎え、気持ちはまさに「ちむ・どんどん」。

障がい者支援員としてまだまだ不十分ではございますが、多くの先輩職員方より指導

【おおぞら活動紹介】

自主製品

≪ ステンシルによる布巾、ハンカチの製作 ≫ ≪ エコバッグ (ろうけつ染め・しぼり染め) ≫
 ≪ ビーズワーク (ストラップ・ネックレス・ブレスレット等) ≫ ≪ 季節の置物作り (干支飾り等) ≫
 ≪ 木工加工 (キーホルダー・クリスマスツリー等) ≫ ≪ 布製品 (マスク・ブックカバー等) ≫
 ≪ 紙製品 (カード入れ等) ≫ ≪ 食品加工 (各種ジャム等・ドロップクッキー等) ≫



外注作業内容



- 官 公 需** .. 区立公園清掃2ヶ所・四十雀巣箱作り
企業受注 .. 鑑賞魚用エアポンプの部品組立・箱組み立て
 菓子袋折りと紐通し・飴の各種梱包作業
 毛糸のサンプルセット作成

..... 企業受注承ります。お問い合わせ下さい

ホームページ

<http://www.seishonokai.or.jp/>
 又は、「おおぞら」で「検索」してご覧下さい。

≪ 青松の会おおぞら職員 ≫

〈施設長〉 圓山賢吾 〈副施設長・サービス管理責任者〉 熊谷重信
 〈主任〉 前田友江 〈支援員〉 豊里篤・石原道・加藤由香里・青木紀子
 戸澤道子・網本敦子・松田 淳 〈事務担当〉 田村美矢子

特定非営利活動法人 青松の会おおぞら

〒152-0001 東京都目黒区中央町2-32-13

TEL : 03-3710-2531

FAX : 03-3710-2540

E-mail : oozora@seishonokai.or.jp

発行人 圓山 賢吾